

鬼石中だより



自立・貢献

藤岡市立鬼石中学校
令和7年度学校だより 第14号
令和8年3月26日
文責：校長 五十嵐

* 第40回卒業式 3/13*

令和8年3月13日（金）、藤岡市立鬼石中学校第40回卒業式を挙行し、33名の生徒が巣立ちました。当日は、来賓として、藤岡市教育委員代表様、PTA会長様及び副会長様、地元市議会議員様をはじめ、鬼石地区の区長会、民生児童委員協議会、更生保護女性会の代表の皆様にご臨席いただくと共に、学校運営協議会及びたくさんの保護者の皆様にご出席いただきました。ありがとうございました。



式は厳粛な中にも真心のこもった雰囲気で行進していきました。送辞、答辞は、卒業生、

在校生それぞれへの感謝の念が込められた、たいへん立派なものでした。全校合唱「旅立ちの日に」や、三年生が歌ってくれた合唱曲「3月9日」には、思わず目頭が熱くなりました。卒業式全体を通して生徒全員が、鬼石中生としての誇りと、中学校の善き伝統を体現した、大変感動的な卒業式となりました。

校長式辞では、三年生への餞として「誠を尽くせば天に通ず（至誠通天）」の十文字を贈りました。中学校を卒業し、より広い世界で生きていく中で、自分の力不足に悩み、高い壁に突き当たったり、夢を諦めそうになったりするような苦しい瞬間があるかもしれません。そんな時こそ、「至誠」という言葉を思い出してほしい。至誠とは、目の前のことに一生懸命に取り組むことであり、その積み重ねが、不可能だと思われた扉を押しひらく鍵となるのです。熱意や本気は、必ず誰かの心を動かし、状況を変え、天をも動かす力となります。本気で向き合えば、開かない扉はありません。これからも、自分を信じ、志を高く持って歩み続けてほしい、そんな願いを込めてこの言葉を贈りました。

卒業式にご臨席いただいた皆様をはじめ、地域の皆様に見守っていただいたおかげで今日を迎えることができました。鬼石中生を支えて下さったすべての方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

* 授業参観・PTA年度末総会・学級懇談会 2/27 *

今年度最後の授業参観を行いました。ご覧いただきながら子供達の成長を実感していただけたことと思います。お忙しい中、参観いただきありがとうございました。

また、PTA年度末総会にも、たくさんの保護者の皆様にご参加いただきました。年度始めに、「我々PTAが子どもたちの生き方のモデルとなり、子供達の成長に必要なことを率先して実践し、相互に信頼し協力し、同じ目的に向かって力を合わせていきましょう」と、お伝えしましたが、おかげさまで、保護者や地域の皆様の温かい励ましにより、どの生徒も、鬼石中生としての誇りと自信を持ち、胸を張って中学校生活を送っている姿に、校長として大きな感動と喜びを感じています。鬼石中の教育活動にご尽力いただきました、本部役員、学年委員、すべてのPTA会員の皆様に改めて、心より、感謝申し上げます。

学校としては引き続き皆さんの力を借りながら、一体的に学校経営の充実を図っていきたく考えています。生徒たちの大切な節目に向けて、また、更なる成長に向けて、教職員一同力を合わせてまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

* 3学期校長講話のまとめ *

朝礼や集会で話をするとき、常に心に決めていることがあります。それは、焦点を一つに絞り、短時間で語り終えることです。言葉は、ただ発せられるためにあるものではありません。聞く人の心に届き、聞いた人によって実践されて初めて意味を持ちます。どうすれば、多感な時期にいる中学生の記憶に、大切な教えを刻むことができるか。その問いへの答えとして私が辿り着いたのが、伝えたいことの本質を端的に表現する「十文字」という形でした。そして、今年度も、世の中を「生きていく上で役立つ」話を厳選し、十文字に思いを込めて伝えてきました。鬼石中生が、これらの言葉を基に自己の精神を鍛え、「善さを磨いて一歩前進」しながら、光り輝く未来へ歩みを進めていくことを心から願っています。



「計画なき者に成功なし」(12月2学期終業式)

成功する人は、夢を持つだけで成功するわけではなく、常日頃からの努力と挑戦を継続する強い意志と実行力がある。実行する人は、今やるべきことを確実に、そして計画的に実行することが上手。しかも、計画を立てられる人は、一つ一つの計画を実行し、達成していった先のゴールの姿を鮮明に描くことができる。成功の鍵は、目標達成のための具体的な「計画」を立てることである。

「強い心と希望を持って」(1月3学期始業式)

どんな時代にあっても、私たち人間は、希望を持って生きていくことができる。それは自分の意思で自分の生き方を決めることができるからである。困難な状況に直面しても、明日を信じて、困難を乗り越え生きていくのだ。一寸先は闇ではなく希望の光である。明日はどうなるかわからないが、今日一日笑顔で過ごすしていく、そんな強い心と希望を持って、我々は「生きねばならぬ」。

「教わり力を身に付ける」(1月朝礼)

教わり上手な生徒は、素直な姿勢で先生の教えを注意深く聞き、感謝の気持ちを表現する生徒である。具体的には、集中して聞く態度を示し、感謝を伝えることで、教えてもらう相手(先生)に「また教えたい」と思わせる。さらに、教えてもらったことはすぐ実践し、成長への意欲を行動で示すことができる。

「運を引き寄せるそわか」(2月朝礼)

「徳を積む」ことで自然と大きな運気が味方になり、幸運が引き寄せられる。こうした行いの基本になるのが「そわか」の法則だ。「そ」は掃除(思いやり)。「わ」は笑い(笑顔)。「か」は感謝。「そわか」を意識するだけで、積んだ「徳」が「運」として貯まっていく。そして、いつか必ず、本当に困った時や、大きな夢に挑戦する時に、「幸運」という最高の形で自分に返ってくる。

「月を信じて清風を待つ」(3月朝礼)

自分を信じて自分自身を磨き続けていけば、必ず誰かがその輝きを見つけてくれる。あなたの誠実さ(輝き)に気づいた友人や家族、先生たちが、いつしか心地よい「清らかな風」となって、あなたの背中を押し、支えてくれるようになるのだ。今年度の学校生活を良い形で締めくくり、努力を重ね輝きを放つことで、自分なりの「清風自来」を実感できる春を迎えられることを願っている。

「誠を尽くせば天に通ず」(3月卒業式式辞)

これから生きていく中で、自分の力不足に悩み、高い壁に突き当たったり、夢を諦めそうになったりするような苦しい瞬間があるかもしれない。そんな時こそ、「至誠」という言葉を思い出してほしい。目の前のことに一生懸命に取り組むこと。その積み重ねが、不可能だと思われた扉を押しひらく鍵となるのだ。熱意や本気は、必ず誰かの心を動かし、状況を変え、天をも動かす力となる。

「挑戦そこに人生がある」(3月令和7年度修了式)

「百尺竿頭須進歩 十方世界現全身」 この言葉の意味は、やっとのことで到達した目標であっても、そこに満足するのではなく、さらにもう一歩前に踏み出す、こんな気持ちで生きよ、ということ。学びの道は片道切符の終わりなき道で、前進あるのみ。まもなくスタートする令和8年度に自分の風をおこし、新たな一歩を力強く踏み出そう!